

25 青果物流通システム高度化事業

【100（－）百万円】

対策のポイント

青果物流通の合理化・効率化のため、物流業界との連携による新たな輸送システムの導入実証を行います。

<背景／課題>

- ・青果物の輸入が増加している中、国産青果物シェアの獲得を図るためには、その生産流通体制を革新し、競争力を強化することが必要です。
- ・一方で、ガソリン等の高騰により輸送費が増加するとともに、ドライバー不足等により、遠隔産地からのトラック輸送が容易ではなくなっている状況です。
- ・こうした中、産地では集出荷体制の集約化や遠隔産地からの効率的な輸送手段の確保が課題となっており、生産性の向上を図りつつ、輸送の効率化による農業所得の確保が求められています。

政策目標

- 遠隔産地からの輸送効率を今後10年間（平成37年まで）で3%アップ
- 国産青果物の輸入青果物からのシェア獲得

<主な内容>

1. 新流通方式の導入に向けた関係者の連携促進

生産者、物流事業者、実需者等が連携し、往路に加え帰り荷も確保することによって積載率を向上させるツーウェイ輸送など、輸送の合理化、効率化を図るための情報交換会の開催、流通実態調査等の取組を行います。

補助率：定額
事業実施主体：生産者・物流事業者・実需者等からなるコンソーシアム、民間団体

2. 青果物流通の合理化・効率化の推進

国土交通省の関連施策と連携し、トラックから鉄道・船舶への切替等によって、流通の合理化・効率化を図る際、それに必要な最先端の品質管理技術、低温設備、多段階温度管理システム等導入実証による新たな輸送システムの構築を支援します。

また、週末や祝日の市場閉場時等の輸送量が少ないタイミングを狙った効率的な輸送を可能とする消費地域に隣接した貯蔵保冷設備や集出荷貯蔵施設における長期保存技術の実証を支援します。

補助率：定額、1/3
事業実施主体：生産者・物流事業者・実需者等からなるコンソーシアム

[平成27年度予算の概要]

(関連対策)

1. 国産原材料供給力強化支援事業 【437(575)百万円の内数】

加工・業務用に適した品種の導入に必要な種苗や、実需者ニーズに応えた品質の青果物の効率的な生産流通体制を確立させるための機械化一貫体系の導入等を支援します。

〔 新品種・新技術活用型産地育成支援事業で実施
補助率：定額、1/3
事業実施主体：生産者、物流事業者、実需者等からなるコンソーシアム 〕

2. 強い農業づくり交付金 【23,085(23,385)百万円の内数】

(平成26年度補正予算 17,600百万円)

国産農畜産物の安定供給のため、生産から流通までの強い農業づくりに必要な共同利用施設の整備等を支援します。

〔青果物の流通の効率化に係る支援の例〕

- ・流通コストの低減を図るため、広域一括集出荷への転換に向けた既存集出荷施設の再編利用による整備
- ・実需者ニーズに対応して集荷分配を効率的に行い、流通コスト低減を図るための消費地における青果物流通拠点整備 等

〔 交付率：都道府県へは定額（事業実施主体へは事業費の1/2以内等）
事業実施主体：都道府県、市町村、農業者の組織する団体、事業協同組合等 〕

<各省との連携>

- 国土交通省 ・モーダルシフト等の推進（平成27年度継続）
荷主、物流事業者等が連携して実施するモーダルシフトの運行経費を補助（最大1/2） 等

〔 お問い合わせ先：
生産局園芸作物課園芸流通加工対策室 （03-3502-5958） 〕

青果物流通システムの高度化の推進

(青果物流通システム高度化事業(新規) 平成27年度予算概算決定額 100(一)百万円)

生産者、物流事業者、実需者等が連携し、青果物流通の効率化・合理化のための新輸送システムの導入実証を支援

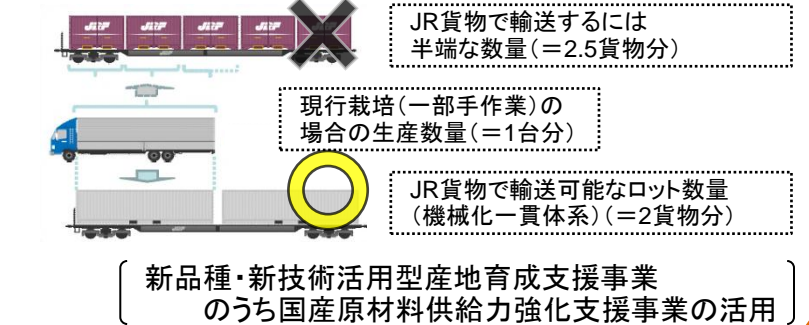
生産段階

農林水産省

- 最先端機械導入による機械化一貫体系の実証
 - 大型収穫機の導入 (だいこん、にんじん、トマト等)
 - 加工・業務用専用品種の導入
- 最先端機械導入による機械化一貫体系の導入



- 定規格で安定した一定量のロットサイズの確保



- 産地広域連合体の集出荷貯蔵施設の再編
 - 効率的な出荷体制へ移行 (強い農業づくり交付金の活用)

輸送段階

農林水産省

- 最先端物流合理化技術の導入実証
 - 多段階温度管理システム
 - ⇒ 青果物、食品等多品目の混載が可能
 - 異業種間の荷主とのマッチング
 - ⇒ 帰り荷の確保によるツーウェイ輸送の実現
 - 大型鉄コンテナや青果物貯蔵のための低温設備
 - ⇒ 産地における積み込み、荷おろしを効率化
 - ⇒ 一定量のロットの品質を維持しつつ、効率的に輸送



(青果物流通システム高度化事業で実施)

国土交通省

モーダルシフトの促進に向けた連携

- 物流全般の合理化、効率化を推進
 - 鉄道、海上輸送の活用(モーダルシフト)の推進
 - 幹線輸送等の集約化 etc...

供給段階

農林水産省

- 安定供給体制の実現に向けた最先端青果物長期貯蔵技術等の実証
 - 超精密冷蔵・貯蔵技術の導入 (※コンマ単位で大規模施設の温度管理)
 - 超長期品質保持技術の導入 (※低温・低酸素保存、菌数制御等)
 - 新たな加工技術の導入



(青果物流通システム高度化事業で実施)

- 供給地点における産地の集出荷貯蔵施設及び農産物処理加工施設の整備 (強い農業づくり交付金の活用)
- 生産者が主体となって中間事業者、食品製造事業者と連携して青果物流通拠点施設を整備 (強い農業づくり交付金の活用)



生産地、物流事業者、実需者からなるコンソーシアムの結成により、情報の共有化、取り組みの活性化

農林水産省

新たな輸送方式の導入に必要な積載経費等の支援

国土交通省

荷主企業と物流事業者が協力して行うモーダルシフトの取組に対する運行経費等の支援

農林水産省

新たな輸送方式の導入に必要な荷卸経費等の支援

青果物の効率的な流通網の構築を目指し、農林水産省と国土交通省の連携

「青果物流通システム高度化研究会」の設置・開催

青果物流通の現状と課題を把握し、関係者間で問題意識の共有、打開策を検討することによって「青果物流通戦略」の策定を目指す